

AI／ロボット言説における 文化的・社会的影響を 東アジアの視点から考える

講師
佐倉 統 教授

(東京大学大学院情報学環／理化学研究所革新知能統合研究センター)

AI や

ロボットが人間を
凌駕すると支配する

とか滅ぼすとか、物騒な物

言いが流布している。これらは

西洋的な世界観や技術観の影響 (バイ

アス) を強く受けているように思う。背景

には、人と機械 (人工物) を対置させてその

関係を論じる視点や、機械は自動的に効率よく

作動するものだという力学的機械論や、人間は他

の動物とは異なる独自の存在であるという人間特殊観

などが透けて見える。しかし、そもそも人類の進化は、常

にさまざまな人工物とともにあった。石器を作り、衣服をまとい、

家を立て、鋤や鋤で土地を耕し、筏や船で世界中に広がっていった。人

類の系統の最古の道具使用は 330 万年前にさかのぼる。人工物は人間の一部で

あり、人間は人工物のパートナーである。AI やロボットも、それらの人工物であるこ

とに変わりはない。これらの人工物を人間と対置して、どちらが優れているとか、どちら

が支配するかとか論じるのは、問題の見方が偏っているように思う。人間と機械を、連続したひ

とつのシステムとしてとらえよう。そして、そのシステムの特徴や性能を考えよう。その方が、これからの

AI／ロボットと人間関係を考えるときに、生産的で建設的なはずだ。その際、人と自然を連続した存在としてと

らえる東アジアの自然観が助けになってくれると思われる。 It has recently been rather commonly said that artificial intelligence (AI)

and robots would defeat, dominate and even terminate human beings in the near future. We can detect at the base of such discourse about artifacts the

following specific frameworks: a perspective that treats humans and machines as opposites, a view of mechanics in which machines are expected to run automatically and

efficiently, regarding human beings as special creatures different from other beasts. The process of human evolution always involved interaction with various artifacts like making

stone tools, dressing up in clothes, building houses, plowing and hoeing the land, and spreading around the world in rafts and boats. The oldest tool use by humankind can be traced back 3.3 million

years ago. Artifacts are an inevitable part of human life, and human beings are partners to artifacts. AI/robots are still put into the same category with those artifacts. I believe that the argument becomes biased

when we place artifacts and human beings in binary opposition and only consider which would be dominant over the other. Instead, we should treat humans and machines as an inseparable, single system,

characteristics and potentials of this system. I believe this is a more productive and constructive way to consider the relationship between AI/robots and human beings in

establishing such perspective, the Eastern view for the nature is helpful, in which humans are regarded as parts of nature and not emphasize human/nature dichotomy.



佐倉 統 教授(東京大学大学院情報学環／理化学研究所革新知能統合研究センター)

1960年東京生れ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所、横浜国立大学経営学部、フラインク大学情報社会研究所を経て、現在、東京大学大学院情報学環教授と理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー。専攻は進化生物学だが、最近は科学技術と社会の関係についての研究考察がおもな領域。長い長い人類進化の観点から人間の科学技術を定位するのが根本の興味である。

1994年 - 1999年 横浜国立大学 経営学部 助教授

2000年 - 2007年 東京大学 大学院情報学環 助教授

2007年 - 現在 東京大学 大学院情報学環 教授

2015年 - 2018年3月 東京大学 大学院情報学環 情報学環長

2017年 - 現在 理化学研究所革新知能統合研究センター 科学技術と社会チーム チームリーダー

お問合せ / 学際科学フロンティア研究所事務局 795-5755

主催：東北大学学際科学フロンティア研究所



会場：学際科学フロンティア研究所 大セミナー室
2018. 7.10 TUE 10:30-12:00

「事前申込不要・参加自由」